

平成 26 年度九州沖縄地区国立高等専門学校技術職員研修報告

第二技術班 中原勝俊

1. はじめに

九州沖縄地区の技術職員研修は、平成 10 年度より開始され、私自身この第 1 回の研修に参加してから今回で 4 回目の参加となる。基本的に九州沖縄地区の技術職員研修は、若手技術職員の交流が主な目的であると私自身は感じている。そのため、多少の抵抗も感じられたが、数年前より熊本高専だけで運用されていた研修を、平成 27 年度より以前のように開催会場を各地区の高専で持ち回りすることが決定されており、本研修を開催するにあたり、運用側の立場から見てみたいという気持ちもあったので、今回の研修に参加することとした。

2. 研修日程

平成 26 年度の研修は、情報系、機械系、材料系分野の技術研修が計画され、研修期間は、平成 26 年 8 月 27 日（水）～8 月 29 日（金）の 3 日間で、熊本高専の八代キャンパスで実施された。研修内容は以下の表に示すとおりである。

平成 26 年度九州沖縄地区技術職員研修日程

| 8 月 27 日（水） | 8 月 28 日（木） | 8 月 29 日（金） |
|---------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開講式 ・ 技術課題等の発表及び自由討議（午前、午後） ・ 技術交流会 | ・ 講義Ⅰ 「情報セキュリティについて」 「安全管理に関する講義」 ・ 工場見学 「平田機工株式会社熊本工場」 | ・ ものづくり体験講座 ・ 施設見学 ・ ものづくりアイデア交換会 ・ 講義Ⅱ 「生活支援ロボット研究開発の現状と高専でのロボット研究のあり方」 ・ 講義Ⅲ 「知財について」 閉講式 |

3. 研修内容

3.1 技術課題の発表

今回の研究発表では、機械系・材料系が 7 割、情報系が 3 割といった様子であった。私の担当している内容が情報系であるので、機械系の発表では難しい内容も多かったが、それよりも各高専の若手技術職員の発表に非常に感心させられた。それぞれ各高専の技術職員の技術の高さをうかがい知ることができ、各人が日頃の実験・実習において取り組んでいる技術課題、創意工夫している点や苦

労している点、等といったことが生き生きと発表され、大変興味を持って聞くことができた。また、発表を聞くことにより私自身も技術職員として大いに刺激を受けたし、それと同時に、やはりうちの若手技術職員にも聞いてもらいたかったと感じた。

3.2 その他研修内容

各講義について、「情報セキュリティ」の講義では、日頃携わっている内容について詳しく話を聞くことができ、大変参考になった。また、「知的財産権」の講義では、同じ高専の技術職員の活躍などを知ることができ、大変感心させられた。そして、学外の工場見学では、平田機工の熊本工場を見学させていただいた。設備の素晴らしさもさることながら、熊本高専八代キャンパスの実習工場の技術職員の方々が製品開発に協力されていることを聞き驚いた。また、施設見学、ものづくり体験講座では、実習工場の技術職員の方々に大変お世話になり、特に、技術課題の発表でも多数発表されていたが、3Dプリンタを実験・実習に取り入れられていて、学生への指導、またその装置の管理すべてを技術職員が行われており、実習工場のすべての技術職員の方が3Dプリンタを使いこなされているのを見て大変感心させられた。最後に、ものづくりアイデア交換会では、今回が初めての試みということであったが、特に最近、どの高専においても地域貢献の一環として出前実験が行われているが、そこで実際に実施されている内容、装置、工作物などを展示して、お互いに情報交換するといった内容であった。私自身、この分野にあまり携わっていないため、他の高専に参考となるものは発表できなかったが、様々な内容が発表され、大変参考となった。一部はおみやげとしていただけてきた。

4. おわりに

九州沖縄地区の技術職員研修は、私自身今回が4回目の参加ということもあり、当初は多少の抵抗もあったが、実際に研修に参加してみると、各高専の技術職員の活躍を実際に見聞でき、大変刺激になった。また、いずれも同じ工業高専の技術職員という職種の人たちの集まりである。当然うちとけるのも早く、期間を通して和やか、かつ有意義な研修であった。さらに、最初に述べたように、開催側からの視点でも本研修を考えることができた。研修を実施するにあたっては、技術職員一人一人がこのような研修で発表できるだけの業務を日頃から意識して取り組むことが重要であり、そのためには、自分自身が携わる技術分野において、常に高い意識を持って取り組まなければならないと感じた。そして、今回何よりも私が最も痛感したことが、職場環境の大切さである。熊本高専の八代キャンパスの技術職員の方々を見て感じたことでもある。現時点の私達にはかなり難しいことなのかもしれない。しかし、技術職員それぞれがお互いを尊重し合う職場の環境作りをしていくことは、本当に大切なことであり、それが今の私達の課題であると痛感した。いずれにしても私自身にとって今回の研修会は、非常に実のあるものであった。